

全日本中学校技術・家庭科研究会における相談対応サービス報告書

実施団体：開発教育協会（DEAR）

日時：2011年11月10日（木）9：30～16：30

場所：大田区産業プラザ Pio（東京都大田区南蒲田 1-20-20）

イベント名：第50回全日本中学校技術・家庭科研究大会

主催団体：全日本中学校技術・家庭科研究会、関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究会、東京都中学校技術・家庭科研究会

実施内容：相談対応（ブース出展）

当日は「持続可能なよりよい社会、生活をめざす技術・家庭科教育」をテーマとする研究大会で、全3日間のプログラムの内、全体会においてブース出展し、相談・照会対応を行なった。参加者は全国の中学校からあつまった技術・家庭科教員約500人で、会場にブース出展し、世界の貧困やグローバル化、国際理解などをテーマにした教育実践について、約20件の相談を受けた。

ブースでは、開発教育の教材や学校における実践資料などを展示・閲覧し、世界の貧困問題などに関心のある先生方が、自由に立ち寄り情報を得られるようにした。相談内容は、技術家庭科でできる国際理解教育の教材や実践事例についての質問、児童労働やフェアトレードを学べる教材に関する質問、そのほか学校でできる国際理解教育についての質問が多かった。

所感および効果：

中学校で来年度から適用される新学習指導要領では、他国を尊重し国際社会の平和と発展に寄与する力をつけることが新たに目標とされ、技術家庭科教育の中でもグローバル化する社会で、多文化共生や国際協力の必要性がうたわれ、そうした状況の中で「生きる力」の重要性が挙げられている。しかしながら、学校ではそうした新しい方針に対し、実践の進め方に試行錯誤している段階で、来場する先生方からは、少しでも役だつ情報や資料を求めているという印象を受けた。

技術家庭科教育では身近なものを学習の題材（テーマ）として扱うが、国際理解教育においては身近なことから世界とつながる実践や資料・教材の蓄積が比較的多いことから、今回の出展では来場者のニーズにこたえることができたと思われる。具体的には、衣食住を扱う家庭科教育ではフェアトレードや児童労働、食の輸入といったテーマへの関心が高く、技術科教育では、携帯電話などの家庭用品を入口に世界につながるような教育実践への関心が見られた。特にフェアトレードや児童労働については、教材等とともに現場型の国際協力NGOの活動も紹介することで、今後の教育実践で必要が生じた際にNGO相談員へ照会ができるよう配慮した。国際協力に対する理解の入口として、身近なテーマから世界とつなげやすい技術家庭科教育でより多くの国際理解教育が実践されていくことが、重要だと感じられた。

第3回ユネスコスクール全国大会における NGO 相談員ブース出展 出張サービス報告書

実施団体：開発教育協会／DEAR

日時：2011年11月12日（土）10：00～17：00

場所：東京海洋大学 品川キャンパス（東京都港区港南 4-5-7）

事業名：第3回ユネスコスクール全国大会

主催団体：文部科学省 日本ユネスコ国内委員会

実施内容：相談対応（ブース出展）

大会自体には全国各地から教員、学校関係者や学生などの約300名の参加者があり、持続可能な開発のための教育／ESDや国際理解教育などに関心のある参加者から約20件の相談を受けた。ブースには、ユネスコスクールですすめられるESD活動や、学校でできる国際協力・国際理解教育を示すパネルをこの日のために作成し、展示したことで、参加者の目を引くことが出来た。相談内容は、ESDや国際理解教育に関する質問、教材や素材に対する相談、学校でできる国際協力活動についての質問などが多かった。分科会などの時間には、関連のあるプログラムに参加して、NGO相談員の説明も行った。

所感および効果：

全国各地から熱心な教員が集まり、会場には熱気があった。ユネスコスクールに登録している学校はもちろん、そうでなくても先駆的な活動を行っている学校や大学の教員、関係者が集まる機会に、NGO相談員ブースを出展できたのは、良かったと思う。

文部科学省もユネスコスクール登録を積極的に呼び掛けていることや、新しい学習指導要領で「持続可能な社会」が強調されたことから、今後学校で、ESDや国際理解教育、国際協力への取り組みが進めやすくなるのでは、と期待している。

ただ、相談員ブースを設置した会場がメイン会場から離れていたのと、参加者が自由にブースを回る時間が限られていたので、全員がブースを訪れたわけではないこと、そしてゆっくりと相談を受ける時間が少なかったのが残念だった。中でも、ESDや国際協力に関する学習をすすめるためのヒントを探している方が多く、全国にいるNGO相談員の存在にも関心を持っていただくことが出来た。



NGO-JICA 協議会「第 3 回開発教育／国際理解教育に係る連携強化のための分科会」 出張サービス報告書

実施団体：AMDA 社会開発機構／えひめグローバルネットワーク／PHD 協会／開発教育協会（DEAR）

日時：2011 年 11 月 24 日（木）15：30～18：00

場所：ひろしま国際センター（広島市中区）

事業名：NGO-JICA 協議会「第 3 回開発教育／国際理解教育に係る連携強化のための分科会」

主催団体：NGO-JICA 協議会「開発教育／国際理解教育に係る連携強化のための分科会」

実施内容：分科会における意見交換、情報共有

NGO-JICA 協議会のなかに設置された分科会「開発教育／国際理解教育に係る連携強化のための分科会」の第 3 回目を中国地域で開催し、中国地域における NGO と JICA の連携強化を図る具体的な方策や、地域の団体の意見・経験等が反映される仕組みについて、NGO と JICA の関係者間で情報共有や意見交換を行った。開発教育協会と PHD 協会は分科会の NGO 側の構成メンバーでもあるが、今回、第 3 回を中国地域で開催することになり、中国・四国地方の NGO 相談員にも協力してもらった。

所感および効果：

JICA 側は中国国際センターの市民参加協力課職員や国際協力推進員など 15 名、NGO 側も広島、岡山を中心に 14 名が参加し、それぞれの活動の報告や JICA との連携の実績、課題、提案等を出し合い、JICA 側もそれにこたえる形で率直な話し合いが出来た。具体的には、今回のような情報共有や率直な話し合いをする機会を定期的に作ることの重要性を確認できた。

NGO 相談員としては、中国・四国地域そして他の各地域における NGO 間の連携、JICA との協働などについて情報共有をした。また、開発教育や国際理解教育の現状についても情報提供ができた。

NGO・JICA 双方の参加者の質問や要望についても、NGO 相談員が関われる部分が多いことも確認できた。今後、国際協力推進員や各地の JICA センターとの連携、さらにこのような会議の場づくりに対しても、NGO 相談員が果たせる役割が多いことを強く感じた。



「『参加型』で『平和』『ヒロシマ』を学ぼう 公開施行ワークショップ」における相談対応・助言 出張サービス報告書

実施団体：開発教育協会／DEAR

日時：2011年11月26日（土）13：30～17：00 / 11月27日（日）9：30～13：00

場所：26日 県立広島大学 広島キャンパス（広島市南区宇品東1-1-71）

27日 広島平和文化センター研修室（広島国際会議場3階）

事業名：「『参加型』で『平和』『ヒロシマ』を学ぼう 公開施行ワークショップ」

主催団体：県立広島大学、地球市民共育塾ひろしま

実施内容：ワークショップへの助言、相談対応

市民団体「地球市民共育塾ひろしま」は、県立広島大学と共同で、2010年度より教材開発に取り組んでいる。現在制作中の教材を実演し、参加者にフィードバックをもらう「公開試行ワークショップ」にNGO相談員として参加し、開発教育や国際協力の意義や目的を解説するとともに、プログラムの内容や教材の改善点などについて、助言した。

<実施内容>

Aコース「教室で参加型!!」 11月26日(土) 13:30～17:00

○参加型教材「はじめの第一歩」ファシリテーター：西川京子

○参加型教材「平和ファシリテーターになろう」ファシリテーター：服部淳子

Bコース「平和公園で参加型!!」 11月27日(日) 9:30～13:00

○参加型教材「平和公園オリエンテーリング」ファシリテーター：岡田祐一

○参加型教材「ヒロシマを伝えるために」ファシリテーター：中須賀裕幸

所感および効果：

平和、開発問題に関心のある一般市民、教育関係者、学生等約30名が参加し、活発な意見交換が行われた。被爆地広島で、広い意味での国際協力や持続可能な開発を含めた平和の学習活動について、試行錯誤がされていることが良く分かった。既存の平和教育を、現在の世界の貧困や開発問題へもつなげるための工夫や、学びながら新しい価値観を導き出す教材やプログラムの作り方、などを参加者と一緒に深く考えることが出来た。実践者からも、様々な見方や評価をもらい、今後の教材の改善に役に立ったという感想があった。



平成23年12月8日

外務省国際協力局
民間援助連携室長殿

平成23年度NGO相談員 出張サービス実施報告書

(特活) 国際協力NGOセンター
富野岳士、水澤恵

NGO相談員による出張サービスを下記の通り実施いたしましたので、ご報告申し上げます。

1. 概要

- 出張サービス企画名：国際協力キャリアフェア2011
- 実施日時：平成23年11月23日 10時00分～17時00分
- 場所：東京ファッションタウンビル（有明）

2. 実施内容

国際協力業界、その中でもとりわけNGOに関心のある国際協力キャリアフェア2011の来場者に対し、JANICブースにて、主にNGOに就職・転職するための相談対応を実施した。また、「NGOで働きたい人へ」をテーマとした講演を実施した。ブースでの相談件数は、36件、講演参加者は66名だった。

3. 所感及び効果等

国際協力キャリアフェアは、国際協力業界での就職・転職を希望する一般来場者を対象に開催されており、当日は政府機関、国際機関、企業、教育機関（大学・大学院・留学）、NGOの3団体が出展し、来場者数734名だった。

当センターはJANICブースに常時2名を配置し、来場者からの相談に応じたが、相談を待つ人の列ができる程活況であった。主な相談内容は、一言でいえば「NGOで働くためにはどうすればいいのか？」であったが、修士号の必要性有無と専攻、語学力の必要性有無、キャリア形成の仕方、求人情報へのアプローチ、NGO職員の福利厚生の実態、海外駐在員または海外でインターンとして働く方法、日本のNGOの強みと弱みなど多様なアドバイスおよび情報

提供を行った。

相談者層としては学生と社会人からの相談が半々程度で、学生からは新卒で働ける可能性、NGOでのインターン情報、学生時代に体験しておくべきことや学ぶべきこと、企業で働く間に身に付けておくべきスキルなどに関する質問が多かった。また、社会人からは転職方法や企業で学んだスキルの活かし方、企業の仕事とNGOの仕事の相違点・共通点、企業に勤めながらNGOでボランティア活動ができるかなどに関する質問が多かった。また、国際協力業界で働く上で、政府、企業、国際機関、NGOのどの立場から関わるべきかを模索している方も多く見受けられたため、各セクターの特徴や就職の概要についても説明した。

本出張サービスでは、国際協力NGOへの就職・転職や、NGO活動への参加を考えている来場者に、具体的な情報の提供および相談に応じることができた。また今後NGOでスタッフ及びインターン・ボランティアとして活躍し得る人材の確保に寄与するという目的を達成できたと言える。その一方で、課題としては、NGOへの就職希望者が増えている中で、受け皿としてこれらの方々を受け入れられるNGOの組織体制の構築、基盤整備などがまだまだできていない点である。相談者の中には、NGOの財政状況や給与面を心配する方々が多く、転職に踏み切れないという声も聞かれた。また、平和構築など日本のNGOで活動している団体が少ない分野に就職を希望する方に対しては、海外のNGOも選択肢として視野に入れるよう勧める必要があった。

今後も継続的に本フェアのような場で、NGOで働きたいという一般市民の相談に対応していくことは、本出張サービスの重要な役割と言える。

JANICブースでの相談対応の様子



講演会の様子



2011年12月8日

NGO 相談員による出張サービス実施報告

特定非営利活動法人 難民を助ける会

企画名： NGO の緊急人道支援活動を通じた国際協力の理解促進

開催日時： 平成 23 年 11 月 14 日 14 時 50 分～16 時 20 分
11 月 15 日 10 時 45 分～12 時 15 分

主催者： 広島修道大学法学部国際政治学科

場 所： 同大学

出張者： (正・副・その他) 特定非営利活動法人 難民を助ける会 堀越芳乃

参加者： 学生、教員、計 70 名

実施内容：

11 月 14 日の国際機構論Ⅱでは、まず、難民を助ける会による東北での緊急支援活動について紹介した。具体的に 3 月から 4 月の活動において、どのようなプロセスを経て被災者まで物資が届けられていたかを順を追って紹介した。また、一昨年実施したハイチでの緊急支援活動と比較し、東北での活動との違いについて紹介した。さらに、海外の緊急支援では共通のルールとなっているスフィアプロジェクトや調整会合の実施が日本の緊急支援では不足していること等、日本の緊急支援での課題を説明した。

11 月 15 日の国際関係演習 AⅡでは、14 日に紹介した内容の概要を説明するとともに、生徒からの様々な質問に答える形をとり、国際協力で求められる人材について、大学生の立場でできること、大学生のうちにすべきことなどについてお話しした。

所感：

実際に東北でボランティア活動を実施した学生もあり、関心の高さがうかがえた。東北での活動は、アジアやアフリカでの活動に比べ、生徒たちにとって理解しやすく、活動内容をイメージしやすい様子であった。その結果として、今回の講演では、東北支援活動を紹介することが、国際協力に関心をもつ第一歩にもなりうることが実感できた。

学生にとっては、実際に NGO で活動に携わる職員から話を聞く機会もあまりないため、様々な質問が寄せられた。特にどのような人材が必要とされているかについては、生徒たちの関心も非常に高かった。日ごろから、どのような学習・経験が NGO で働く上で有益となりうるのか、NGO 側も積極的に発信していくべきだと感じた。

講演の様子

11月15日の様子



平成 23 年 12 月 10 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(団体名) 特定非営利活動法人
日本国際ボランティアセンター

NGO相談員による出張サービス実施のご報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり行いましたので、ここにご報告いたします。

記

1. 企画名： 「さいたま国際フェスタ 2011」【形態： イベント・相談対応サービス】
2. 出張者氏名：
中村 絵乃(開発教育協会)、吉澤有紀(難民を助ける会)、稲見由美子(JVC)、島村昌浩(JVC)
3. 依頼元／主催団体名： (財)埼玉県国際交流協会、JICA広尾センター、(特活)開発教育協会、(特活)難民を助ける会、(特活)日本国際ボランティアセンターによる共催
4. 実施日時： 平成 23 年 11 月 5 日(土)・6 日(日)両日とも 10 時 00 分 ～ 17 時 00 分
5. 実施場所：さいたま新都心けやきひろば(埼玉県さいたま市中央区)
6. 企画の概要：
 - ① 企画内容： 埼玉県内の国際協力・交流団体が集まり、関心の高い県民が訪れるイベントの中で、ブースを設けて質問・相談に対応する。
 - ② 目的： 一般来場者に対して、ODA や国際協力活動についての啓発・広報を目指すとともに、すでに国際協力活動になんらかの関わりを持っている・持ちたいと考える人たちに、情報を提供する。今回出張を承認された相談員団体 3 件は、地域開発・人道支援、開発教育、国内ボランティア活動、CSR など総合的に国際協力・交流活動について対応助言をしてきた。
 - ③ 参加者： ブース訪問者は 28 名程度、一般来場者は 100 名ほど。
7. 相談対応の内容：

2 日間とも、ブースでの 1 対 1 の対応を基本とした。1 日目は AAR+JVC、2 日目は DEAR+JVC で、相互に補完しながら対応することを心がけた。天候があまり思わしくなく、来場者数は伸びなかったが、初めて NGO 相談員団体が当該イベントに参加し、「こういう制度もあるのか」という広報効果はあったように思う。
8. 所感・効果など
埼玉県内在住の職員を両日とも配置し、埼玉県内のボランティア活動や団体を紹介する

うえで土地鑑をもっているために対応がより詳細になったことは効果的だったと思うが、一方、相談員団体が出張するよりも、日常的に電話やメールなどによる質問相談を受け付けているという広報を強化してよりアクセスをしやすいほうが、効果的ではないかと思われた。ただ、これはさいたまけやきひろばという立地条件もあり、県北部や東部であれば、出張サービスを行う意義は十分にあるように思われる。

以上

写真報告 「さいたま国際フェスタ2011」 (2011年11月5・6日)



左上:AAR吉澤氏。
右上:ブース前の掲示
左下:JVC稲見



左上:JVC島村
右下:DEAR中村氏。



平成23年12月8日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人ソムニード
NGO相談員 末武由貴子

NGO相談員による出張サービス実施報告書

NGO相談員による出張サービスを下記の通り実施しましたので報告致します。

記

1. 企画名：JICAボランティア岐阜県OV会 交流研修会
【形態：相談対応サービス・**講演** セミナー・その他（ ）】
2. 出張者氏名：末武由貴子
3. 依頼元：JICAボランティア岐阜県OV会
岐阜県青年海外協力隊を支援する会
4. 実施日時：平成23年11月5日（土）18：00～19：00
5. 実施場所：山県市役所 北山交流センター（岐阜県山県市神崎100）
6. 参加者数：30名（青年海外協力隊OBOG、青年海外協力隊を支援する会会員、
国際協力や国内地域づくりに興味のある人 他）
7. 相談件数：13件
8. 企画概要：岐阜県に拠点を置き海外協力活動を行うNGO団体として、当会の国内外の事業を紹介しつつ、海外での経験を地域社会へ還元するという視点を講演で紹介する。
9. 実施内容：以下の内容で講演を実施した。
 - ・当会の国内外の事業について
 - ・海外での経験を地域の社会還元として活かした事例 等
10. 所感及び効果：
「国内事業をすすめる中で、海外での経験が活かされていると感じる時は」「海外と日本の地域づくりの共通点と相違点は」など、海外での経験を国内の地域づくりに活かした事業に関心をもって頂いていると感じる質問が多かった。国内事業に関する質問を特に多く受けたことから、「海外での経験を、帰国後に地域で活かしたい」「経験を活かすためにどのような活動ができるか」といったことに関心をもつ人は多いこと、また海外での経験を日本でも活かすという事例を伝える場のニーズがあることも改めて感じた。



NGO相談員による出張相談実施報告書

1. 行 事 名 「和大祭 2011」NGO相談員の情報&相談コーナー
【形態：相談対応サービス】
2. 出張者氏名 (特活) 関西国際交流団体協議会 眞鍋 瞳子
3. 依 頼 団 体 和大祭実行委員会 2011
4. 実 施 日 時 2011年11月19日(土) 11時～16時
5. 実 施 場 所 和歌山県和歌山市栄谷930 大学法人和歌山大学キャンパス

6. 実 施 報 告

(1) 企 画 概 要

- ①当協議会では、本イベントにNGO相談員の出張サービスとして出展し、情報&相談コーナーを設置して国際交流・協力活動の情報提供と個別相談を行った。本イベントの関係者や参加者、参加団体など、今まで国際交流・協力の情報に接する機会の少なかった市民の理解を深めることを目的とした。
- ②「和大祭」は和歌山大学で行われているクラブ活動などの学生団体による展示・発表、会誌・会報などの発行や大学が行っている教育研究などの活動を発表する場として、毎年学生を中心に実行委員会の体制を整えて実施されている。広いキャンパス内で開催されており、外ではメインステージを中心に模擬店のブースが設置されており、校舎内では各クラブ活動や研究報告を行う場となっていた。当初、相談員ブースは野外で設置されているテントを使う予定だったが、あいにくの雨と風で外ではなく、校舎の部屋を使つての案内となった。
- ③本イベントは JICA 和歌山との共同出展で行った。JICA 和歌山はフェアトレードコーヒーを提供するジャイカフェとフィリピンで活動している協力隊員と現地住人による石鹼とオイルのモニタリング調査を行った。

- (2) 参 加 者 <ブース個別相談対応>11月19日(土) 合計 20名
ジャイカフェ来場者数： 約 100名
来場者総数：約 3,500名

- (3) 相 談 内 容 ①NGO/NPOの活動内容について…3件
②海外ボランティアについて…2件

③フェアトレードについて…11件

⑤ワン・ワールド・フェスティバルについて…4件

(4) 相談者区分 [学生]17名 [社会人]2名 [退職者]1名

7. 全体的な感想

今回参加した「和太祭 2011」は和歌山大学で開催されており、JICA 和歌山が昨年度よりブース出展をしている。JICA 和歌山はブースにて海外青年協力隊の広報のほか、フェアトレードコーヒーを無料で飲めるカフェスペースを提供したり、来場客にフィリピンで活動している協力隊員と現地住人による石鹸とオイルのモニタリング調査を行ったりした。

天候はあいにくの荒れ模様で、当初は外でブース出展となっていたが、急遽教室を利用した出展となった。午後になると風が強くなり、野外で模擬店などが出展していたがテントをしまうこととなった。

教室に移動したことで、来場客が減るのではないかと懸念があったが、雨宿りをかねて人の出入りが多かったため、天候の割には多くの来場客があったと思われる。また、カフェスペースを設けていたので、それぞれの滞在時間が長く、相談者とじっくりと話すことができた。しかし、午前中はにぎわいを見せていたものの、午後をすぎると全体的に来場者数が減り、15時ごろにはほぼ人がいなくなった。

相談内容は、フェアトレードコーヒーを提供していたということもあり、フェアトレードに関しての質問が特に多かった。そのほかは、ボランティアに関する情報を提供することとなった。学生のほかにも関係者やその家族が立ち寄ることもあり、大学での出張サービスであったが幅広い層に情報が提供できたかと思われる。

今回は JICA と共同ブースで出展したこともあり、比較的国際協力に興味を持つ学生たちがいたが、それでもまだ関心のある学生は少なく、自ら相談をしにくるというより、こちらから声かけを行うことで相談にいったケースがほとんどであった。まずはフェアトレードや国際協力イベントの案内を行うことで、興味をもってもらいそこから相談へと発展させていたが、ブースへの来場者数を考えると相談者数は少ないようにも思われる。しかしながら NGO 相談員のチラシなどを来場者にくばることができ、広報という点では成果があったと思われる。

今後、学生たちへアプローチができる場として大学祭など学生が主催しているイベントへ出張することができればと考えている。またこのように JICA との共同でイベント出展することで、より多くの集客ができるので、今後とも JICA と関わっていきたい。

相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 企画名：コープこうべ ボランティア交流会 出張 NGO 相談
※出張形態：出張相談
2. 出張者：吉田 宜子 ((公財)PHD協会 国内研修生)
3. 実施日：2011年11月27日(日) (11:30~13:00)
4. 場所：生活協同組合コープこうべ 生活文化センター2F ホール前
5. 対象者：ボランティア交流会参加者 100名
6. 実施報告：コープこうべで年に一度開催されているボランティア交流会におけるバザーの時間に、PHD協会のバザーコーナーの隣に、相談員のコーナーを作り、相談を行った。当日は、その時間に昼食と、参加団体のバザーがあり、また、そのセンターにはスポーツ、文化講座への参加者など、多くの人々が参加しやすい雰囲気だった。隣が兵庫県ユニセフ協会のバザーコーナーだったこともあり、NPOとNGOとの違いについての質問があった。また、フェアトレードとしての出展は、PHD協会だけだったので、どのような形で支援をしているのか、各国にはどのように行って買い付けをしているのか、その人たちは、どのようにして、これらの技術を習得したのかなどの質問が多く、フェアトレード商品ができるまでの過程に関心が高いように感じた。交流会の参加者は、意識も高く、コープこうべと当協会の関わりも深いことから当協会の活動を通して国際協力への理解を深めてもらえたように思う。また、継続的にバザーへの参加を望む声や、コープこうべの活動サポートセンターからも次回の参加や、相談員コーナーの設置の要望があり、今後も継続していきたい。
7. 添付画像：別紙に当日の様子を添付



バザー横の相談員コーナー

平成 23 年 12 月 7 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
山上 正道

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

NGO 相談員として、出張サービスを実施しましたので、内容をご報告させていただきます。

記

1. 企画名 : 「アフリカンフェスタ 2011」における相談対応サービス
2. 形態 : 相談対応サービス
3. 主催団体名 : 外務省
4. 実施場所 : 山下公園 (横浜市中区山下町 279)
5. 実施日時 : 平成 23 年 11 月 12 日 (土) 11 時-16 時
11 月 13 日 (日) 10 時-16 時
6. 出張者氏名 : 山上正道
7. 実施内容 :
上記イベントの NGO コーナーにブースを出展し NGO 相談コーナーを設け、相談に応じた。天候にも恵まれ、来場者は 21 万人に達し、NGO コーナーにも多くの来場者があった。2 日間を通して、47 件の相談に対応することができた。相談者は、会社員 (27 件)、学生 (12 件)、政府関係者 (4 件)、教員 (4 件) であった。
きた。
8. 所感・効果
合計 47 件の相談に対応することができた。内容は多岐に渡り、年齢層にも幅があった。NGO への就職に関することが多く、その大半は現在企業に勤めており、将来的に NGO

への参加を考えている方が多かった。NGO の活動や資金源などの質問も多く、「国際協力と NGO」の冊子を活用し、NGO 連携無償基金などの外務省と NGO のパートナーシップについての説明を行った。また、JICA 草の根技術協力や民間企業や財団の助成金などの紹介も合わせて行った。アフリカに事務所を設置し事業を実施する NGO は多くない中で、ザンビアとジブチに職員を派遣している当団体が今までの活動や ODA や民間企業との連携を通じた具体的な事例紹介ができ、NGO 相談員として参加した意義は大きかったと考える。

相談者からは、インターネットなどの情報収集とは異なり、対話式で情報を得ることができてよかったとのコメントもいただいた。

NGO やその活動について、実例に基づいた具体的な情報を得ていただけたものとする。

9. 写真資料



以上

平成 23 年 11 月 15 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
稲葉 久之

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

NGO 相談員として、出張サービスを実施しましたので、内容をご報告させていただきます。

記

1. 企画名 : 「アフリカ&パーカッションフェスティバル 2011」
2. 形態 : 相談対応サービス
3. 主催団体名 : アフリカ&パーカッションフェスティバル実行委員会
4. 実施場所 : ルルス防府
5. 実施日時 : 平成 23 年 11 月 12 日 (土) 10 時 00 分 ~ 16 時 00 分
平成 23 年 11 月 13 日 (日) 10 時 00 分 ~ 16 時 00 分
6. 出張者氏名 : 稲葉 久之
7. 実施内容 :
「アフリカ&パーカッションフェスティバル」会場内に NGO 相談ブースを設置し、来場者に対する相談対応サービスを実施した。
ルルス防府 2 階の防府市地域協働支援センターと多目的ホールを会場に行われた国際交流イベントで、9 団体が展示、物販、食品販売を行い、8 団体が多目的ホールで演奏、講演を行った。防府市地域協働支援センター2 階、エレベーターホール付近にて NGO 相談ブースを設置し、相談サービスを行い、9 件の相談に対応をした。
8. 所感・効果 :
本イベントは山口県を中心に活動する国際交流・協力団体が中心になって企画されたもので、毎年会場を移して開催されている。主催者発表の来場者数は約 1,500 人であ

った。会場となったルルサス防府は1階に商業施設、3階に市立図書館を持つ複合施設であり、防府駅前の立地ということもあり、今回のイベントを知らずに立ち寄られる方も多かった。

「アフリカ&パーカッション」イベントという性質から、アフリカの民芸品を販売するフェアトレード団体や青年海外協力隊 OV 会によるアフリカ文化紹介のブースが中心であった。相談内容としては、県内の大学生からの質問が多く、国際協力分野での就職やキャリア形成、ボランティア活動への参加に関するもの、次に団体の活動内容について、スタディツアーへの参加について、アフリカの治安や現地事情についての質問が寄せられた。

相談者の一人である大学教員からは、県内に国際協力分野で活動する団体が少ないため、学生にとっても貴重な機会となったというコメントを頂いた。活動を紹介するパネルを展示し、当団体のアフリカ事業担当者が事業内容や現地の様子を紹介することで、より具体的な情報を得て頂けたものとする。

9. 写真資料：



会場の様子（ルルサス防府）



出展ブースの様子



(左)
NGO 相談員
コーナー



(右)
パーカッション
ワークショップ

以上

平成 23 年 12 月 6 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
富岡 洋子

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

NGO 相談員として、出張サービスを実施しましたので、内容をご報告させていただきます。

記

1. 企画名： 第 8 回 ハローほうき国際交流フェスティバル 2011
2. 形態： 相談対応サービス
3. 出張者氏名： 富岡 洋子
4. 依頼元/主催団体名等：
 主催：ハローほうき国際交流連絡会
 共催：財団法人鳥取県国際交流財団
5. 実施日時： 平成 23 年 11 月 13 日(日) 11 時-16 時
6. 実施場所：
 米子コンベンションセンター
 〒683-0043 鳥取県米子市末広町 294
7. 実施の内容：
 上記イベントにおいて NGO 相談ブースを出展し、来場した相談者に対応した。イベントには約 20 団体がブース出展し、ステージ上でも 20 団体以上が発表を行い、NGO 相談員の活動についても 5 分程度の広報を行った。
8. 所感・効果：
 国際交流を趣旨としたイベントで、その目的は良く達成されていた。市民の認知度は高く、しかも年々高まっており、昨年 1,000 人程度だった来場者が今年は 1,500 人に達し、開場前からブース展示を訪れる来場者が多く見られた。
 主催者によると、普段から在日外国人との接点を保つように努めており、市民との交流も盛んだと感じた。
 相談としては、将来国際協力に携わることを希望する社会人に対し、さまざまな係り方につ

いて紹介し、学校単位で国際協力に取り組んでいる専門学校に NGO 相談員制度を紹介した。制度については残念ながら知らないという相談者がほとんどで、さらなる周知の必要性を感じた。

また、東日本大震災の影響などについて何人かに聞き取りを行ったが、それぞれ個人または会社単位での被災地支援は行ったが、NPO/NGO として係っている団体はなく、また、寄付で活動している団体がほとんどなかったため、影響については計ることができなかった。



会場入り口



相談の様子



ステージ発表を見る来場者



ステージ発表

平成 23 年 12 月 7 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
山上 正道

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

NGO 相談員として、出張サービスを実施しましたので、内容をご報告させていただきます。

記

1. 企画名 : 国際交流・協力の日における相談対応サービス
2. 形態 : 相談対応サービス
3. 主催団体名 : 「国際交流協力の日」実行委員会、(財)ひろしま国際センター、広島市、(公財)広島平和文化センター、広島国際会議場、JICA
4. 実施場所 : 広島国際会議場、平和記念公園、平和大通り緑地帯
5. 実施日時 : 11 月 20 日 (日) 10 時～16 時 30 分
6. 出張者氏名 : 山上正道
7. 実施内容 :
上記イベント会場内に NGO 相談員ブースを設け、相談に対応した。
本イベントは、主に広島市内で国際交流・協力活動を続けている市民団体、企業などが中心となって平成 12 年度から毎年開催されているイベントで、今年が 12 回目の開催となる。今年の来場者は昨年より約 400 人増え 7200 人となった。
当日は 13 件の相談に対応し、その半分は学生からであった。その他、NGO 関係者 (1 件) 教員 (4 件) があった。
8. 所感・効果

年々、来場者も増えてきているが、会場が数か所に分かれており、NGO 相談サービスが関心層に十分届かなかったと思われる。また、国際協力よりは国際交流、平和構築に関する活動が多い印象があった。しかし、国際理解教育の分野に関心よせる声は多く、NGO やその活動内容から実例に基づいた具体的な情報を提供できたのではないかと思う。

9. 写真資料



以上

平成 23 年 12 月 6 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
富岡 洋子

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

NGO 相談員として、出張サービスを実施しましたので、内容をご報告させていただきます。

記

1. 企画名： 国際協力キャリアフェア 2011
2. 形態： 相談対応サービス
3. 出張者氏名： 田中 一弘 / 富岡 洋子
4. 依頼元/主催団体名等： 株式会社 国際開発ジャーナル社
5. 実施日時： 平成 23 年 11 月 23 日(水・祝) 9 時 - 17 時
6. 実施場所： 東京ファッションタウンビル (東京ビッグサイト) 東京都江東区有明 3-6-11
7. 実施の内容：

上記イベントにおいてブース出展とセミナーを実施し、今後国際協力に携わることが希望する来場者に対し、開発協力 NGO として国際協力の現場における活動や、さまざまな活動参加の形態について、来場者の状況に応じた情報を提供した。

セミナーでは約 80 人の学生及び社会人に対し、「NGO で働くということ」というタイトルで、NGO の活動内容に加え、具体的なキャリアパスを紹介した。

また、ブースにおいては、将来的に国際協力に携わることが希望する学生を中心に、26 件の相談に対応した。

加えて、ブース出展していた大学関係者とも情報交換を行い、NGO 相談員制度について再度周知を行った。

8. 所感・効果:

セミナーの参加者からは、将来的に国際協力の分野に就職するために今後どういう経験を積んでいけばいいのかが具体的に説明され、理解できたとの感想が多く得られた。ブースでの相談者は、特に現場経験がまだ多くない学生が多く、NGO の具体的な活動についてイメージが得られたので、今後に向け準備を行いたいとのことであった。

主催者からは最終的に750名ほどの参加者があったと聞いた。国際交流イベントとは趣旨が異なり、さらに有料であることから関心の高い参加者だけが来場しており、こういった催しに NGO 相談員を配置する意義を強く感じた。また、地方での実施は難しい面もあるが、九州や関西からの参加者も相談に訪れており、潜在的なニーズは少なからずあるのではないかと感じた。



セミナーの様子
定員 80 名の部屋がほぼ埋まった状態



セミナーの様子
参加者の半数の 40 人が事後アンケートに回答し、関心の高さがうかがえた



ブースでの相談の様子
時間中ほぼ途切れることなく相談者が訪れた



ブースでの相談の様子
大学生に加え社会人からの相談も受けた

平成 23 年 12 月 7 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
山上 正道

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

NGO 相談員として、出張サービスを実施しましたので、内容をご報告させていただきます。

記

1. 企画名 : 第 23 回タイム・フェスティバルにおける相談対応サービス
2. 形態 : 相談対応サービス
3. 主催団体名 : タイム・フェスティバル実行委員会
4. 実施場所 : とりぎん文化会館
5. 平成 23 年 11 月 23 日 11 時 00 分～16 時 00 分
6. 出張者氏名 : 山上正道
7. 実施内容 :
上記イベント会場内に NGO 相談員ブースを設け、相談に対応した。
本イベントは、鳥取県内の国際交流団体が一堂に会し、世界各国の文化に触れられるイベントとして、国際交流団体「タイム」が毎年開催している。今年は 37 団体が参加し、来場者は 1000 名（主催者発表）。各ブースやステージでは活動紹介、各国の特産物の販売、各国の伝統舞踊などが披露された。NGO 相談コーナーでは 19 件の相談に対応した。その半分以上は学生からであった。
8. 所感・効果
イベントの趣旨としては国際交流が主で、世界各国の文化に触れることを主体と

している。しかし、国際協力の分野に興味をもたれた市民も多く、毎年開催されている青年海外協力隊の帰国隊員による報告会は大勢の来場者でにぎわっている。

今回のイベントでも国際協力の分野に興味を持つ来場者が多く、将来 NGO で働きたいという思いを持った学生や社会人が相談コーナーに訪れた。鳥取県内に国際協力に関わる団体が少ないことから、キャリアパスに関することや、実務内容などの相談が多かった。また、将来団体を設立したいという思いを持っている学生からは、活動資金の調達方法についての質問があった。キャリアパスや NGO の活動内容、外務省や企業との連携、資金調達についてなど、実例をも紹介しながら各相談に対応ができたことから、効果的な出張相談になったと考える。

9. 写真資料



以上

平成 22 年 12 月 8 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク
代表理事 竹内よし子 印

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

いつもお世話になっております。

さて、NGO 相談員による出張サービスを下記の通り実施いたしましたのでご報告申し上げます。

記

1. 企画名:「えひめ国際まつり」NGO 相談員デスク

【形態:相談対応サービス・講演・セミナー・NGO 相談員デスク】

出張者氏名:竹内よし子

2. 依頼元／主催等団体名:独立行政法人国際協力機構四国支部(JICA 四国)

3. 実施日時:平成 23 年 11 月 27 日(日) 13 時 00 分～15 時 00 分

4. 実施場所:愛媛県国際交流センター(愛媛県松山市道後一万 1-1)

5. 実施概要:

「えひめ国際まつり」は、多様な参加者が訪れるフェスティバルだが、主に国際協力・交流活動に興味を持つ来場者の質問・相談に個別に対応することができた。また、今回、JICA ブースの隣での相談対応を予定していたがなかなか人が来る場所でなかったため、当団体の出店ブース内に相談員ブースをつくって対応した。フェアトレードに興味を持つ人、ボランティアの相談などさまざまな質問・相談があり、それぞれのニーズに合わせた対応を行った。以下は当日行った相談対応の内容である。

①一般市民

Q:日本政府への不信、年金が減っている、仕事がないなどの人生相談。

A:「相談」の文字を見て来られたようだったので、一通り、話を聞いた後、相談員チラシを渡して NGO 相談員の役割を説明した。

②小学生2名

Q:総合学習と英語学習でいろいろな国について調べている。EPIC 国際まつりで何が調べられるか教えてほしい。

A:いろいろな外国人の方々や、いろいろな国の支援をしている団体が出展しているので、地図を見ながら世界旅行の気分で見学するよう伝えた。

③行政職員

Q:NPO との連携の可能性について、行政だけに頼る、依存型市民が増えているので、NPO とどのように連携していくべきか、アドバイスが欲しい。

A: 県職員向けの研修責任者だったので、現在、愛媛県が委託している「新しい公共」支援事業に関しての情報を提供し、その活動の中で、もっと、中間支援 NPO と行政職員が話し合える場づくりをすることが大切とアドバイスした。また、具体的に活発に動いている NPO を紹介した。

④中学生2名

Q: 総合学習でフェアトレードを学んだが、その後、どう動いたらいいか。

A: 当団体で参加する予定の人権フェスティバルなどで、学んだことを展示してはどうか、学んだ内容をそのままにしないで、まとめて発信していくことも提案した。

⑤高校生2名

Q: 国際協力に興味がある。ボランティアしたい。

A: 高知商業高校の生徒会がラオス支援をしている仕組み、継続している仕組みについて紹介した。また、松山東高校の生徒たちが文化祭で取組んだフェアトレードカフェについても説明し、NGO 相談員の出張サービスも活用できることを伝えた。ボランティア活動については、EPIC 国際まつりなどイベント参加が可能と回答した。

⑥NGO スタッフ

Q: 日・ロ友好協会中四国支部の動きについて、なかなか一緒にやっていくのが難しいと感じているが、どのような方向で向き合えば良いか。

A: ロシア、ネパールなど、当団体が NGO 相談員として横のネットワークを広げられるよう勉強会や意見交換会を開催してきたことを説明しつつ、「観光・スポーツなどの分野で交流するといった機会をシェアするようなアイデアであれば一緒にやっけていきやすいかもしれない」といったネットワークする共通点が見つかるまで意見交換を行った。

以上



(特活) NGO 福岡ネットワーク : NGO 出張相談報告書 (平成 23 年 11 月)

(ア) 出張相談企画名・実施日時・場所

企画名：国際協力フェスタ「地球市民どんたく 2011」

依頼元／主催団体名：地球市民どんたく 2011 実行委員会・(財)福岡国際交流協会

実施日時：平成 23 年 11 月 5 日(土)～6 日(日) 11:00～17:00

場所：アクロス福岡 2 階交流ギャラリー、セミナー室

出張者：原田君子 (FUNN 事務局長)、本田正之 (FUNN 職員)

(イ) 実施内容

【全般】

当企画は、福岡を拠点に国際協力・交流を行う団体が一堂に会し、その活動を一般市民に紹介する企画である。今回で 13 回目を迎え、2 日間で計 23 の団体が参加した。

参加団体はそれぞれブースを設け、団体の活動を紹介するパネルを展示したり、民芸品やフェアトレード商品を販売したり、工夫を凝らしたブースで来場者を出迎えていた。各団体の活動にまつわる問題をブースに設置し、すべてのブースの問題に正解してスタンプをもらった人に商品をプレゼントするというスタンプラリーも行った。また、別の会場では参加団体によるワークショップや支援・交流先の文化を伝える催し物、民族衣装の着付けコーナーなどを開催しており、来場者に様々な視点から国際交流・協力を学んでいただく企画を実施した。

【当団体】

当団体は会場の一角にブースを設け、来場者からの NGO や国際協力に関する様々な相談に対応した。活動紹介やスタンプラリーの来場者対応は出張相談者以外の職員、インターンにも対応してもらい、臨機応変に実施した。

(ウ) 集客人数または相談対応件数

900 名 (2 日間)、20 件

(エ) 所感及び効果等

今年度も、当団体は本イベントの実行委員会として携わりつつ、ブース出展にも参加した。相談は例年通り多くの方々から寄せられ、対応に追われた 2 日間であった。相談内容は「NGO について」「FUNN の活動について」などの基本的なものが多いが、なかには、イギリス留学から国際協力を学ぶために日本に戻っている方で今後の国際協力への関わり方といった込み入った内容の相談も寄せられた。

こうしたイベントの場合、来場者からの相談を待つという受身の姿勢になってしまいがちであるが、相談員から積極的に来場者に話しかけることで国際協力に対する関心を引き出し、考えてもらうきっかけを作り出すことができる。相談以外でも来場者と国際協力にまつわる様々な話を交わすことができたのは、国際協力への理解促進、啓発のための地道な活動として大きな成果があったと考えている。



相談対応の様子



会場の様子

(特活) NGO 福岡ネットワーク : NGO 出張相談報告書 (平成 23 年 11 月)

(ア) 出張相談企画名・実施日時・場所

企画名：かごしま国際交流フェスティバル

依頼元／主催団体名： JICA デスク鹿児島／財団法人鹿児島県国際交流協会

実施日時：平成 23 年 11 月 20 日（日）10 時 00 分～16 時 00 分

場所：かごしま県民交流センター2 階大ホール

出張者：原田君子（NGO 福岡ネットワーク事務局長）、多原真美（NGO 福岡ネットワーク職員）

(イ) 実施内容

本イベントでは鹿児島県内の国際交流・協力の団体がブース出展を行い、団体の紹介や体験コーナーの場を設け市民の方々に国際交流・協力に触れていただく企画である。

活動紹介ブースでは鹿児島で活動を行っている多くの団体が出展しており、各団体はそれぞれのブースで趣向を凝らした展示や販売を行った。活動紹介ブースの他にはパフォーマンスステージが設けられており、出展団体に関係する国や地域の文化を伝えるためのステージが行われ、たくさんの来場者が足を止めていた。会場の外では「世界の食ひろば」と題し、世界 5 カ国の食事が食べられるスペースも用意されていた。

当団体はブース出展を行い、NGO や国際協力に関する市民からの相談への対応を行った。

(ウ) 集客人数または相談対応件数

参加者：4,500 名（2 日間）、5 件

(エ) 所感及び効果等

昨年に引き続き、鹿児島の国際協力推進員にご紹介いただき、二度目の参加となった。当団体のブースは JICA と合同のブースであり、相談に来る参加者の多くが青年海外協力隊に関心を持っていた。その点から、国際協力というと JICA や青年海外協力隊のイメージが強いように感じた。その中でも、「NGO を設立したい」という相談もあり、地方においてはなかなか相談ができる場所/人がいないという現状から、出張相談の必要性を感じた。

全体の参加者は 2 日間で 4,500 人と多くの方に来ていただいたが、活動紹介ブースに来る方は少なかった。2 階という場所の問題も考えられるが、活動紹介ブースや広報の工夫を今後いかに行うかが課題とされる。当団体単独での、普段の活動地以外での広報となると難しい面もあるため、国際協力推進員と今後更なる協力関係を築くことが必要とされる。



相談対応の様子



会場の様子

平成23年11月6日

外務省国際協力局
民間援助連携室 殿

(特活)沖縄NGOセンター

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

NGO 相談員として、出張サービスを実施しましたので、内容をご報告させていただきます。

記

1. 主催等団体名：NPO 法人沖縄 NGO センター
2. 実施日時：平成 23 年 11 月 5 日 12:00～18:00
平成 23 年 11 月 6 日 10:00～17:00
3. 実施場所：真栄里公園（石垣市）
4. 実施内容：

第 47 回石垣島まつりにおいて、在住外国人と市民とが交流を通して、様々な国の文化を知ることができるスペースに相談員コーナーを設置し、開発教育・国際理解教育、国際交流・協力について相談対応に応じた。合わせて、民族衣装体験コーナーを設け交流のサポートを行った。

5. 参加者人数：総勢約 500 名
6. 所感及び効果

石垣島在住外国人と国際交流や協力に関心のある方々が多く足を運んでくださった。今回は、石垣市の国際交流員さんにコーディネートに入ってもらい、石垣へ出張サービスを行うことができたが、このような国際交流・協力の相談対応に応じる窓口がこれまで無かったようで、多くの方が関心を持って足を運んでくださった。

特に、石垣在住の外国人との交流に関する質問が多く寄せられたが、今後の活動を進めていく上で、相談対応のニーズがあると見受けられた。

また、国際交流展の高校生ボランティアが多く、高校生の国際交流・協力の関心の高さがうかがえた。国際理解教育・開発教育に関する質問もあり、教育機関との連携も少しずつ作られてきていることから、今後情報共有をさせて頂きながら、石垣島での活動を進めていきたい。



相談コーナーの様子。



民族衣装体験



開発教育教材を見ながら質問を受けている。



民族衣装について説明しているところ。

平成23年12月 7日

外務省国際協力局
民間援助連携室 殿

(特活) 沖縄NGOセンター

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

NGO 相談員として、出張サービスを実施しましたので、内容をご報告させていただきます。

記

1. 依頼元／主催等団体名：NPO 法人沖縄 NGO センター
2. 実施日時：平成 23 年 11 月 26・27 日 9 時 00 分～18 時 00 分
3. 実施場所：JICA 沖縄国際センター
4. 実施内容：「国際協力・交流フェスティバル 2011」会場にて、相談員ブースを設置した。開発教育・国際理解教育に関する相談に応じたり、教材の体験、民族衣装の試着、民族楽器体験のできる機会や MDGs についての啓蒙を通して JICA 研修生・県内在住外国人参加者との交流の場を提供した。
5. 参加者人数：総勢 1000 名（フェスティバル全体 3554 名）
6. 所感及び効果

相談員ブースを設け、相談対応ブース、情報収集のためのコーナーを設置した。JICA 研修生や一般市民、特に親子連れや国際交流に関心のある参加者が多かった。ブースでは、当センターの教育活動についての質問、NGO・NPO 活動についての質問を受けた。民族衣装・民族楽器体験コーナーでは、実際に触れて遊んだり試着することを喜ぶ親子連れが多くみられた。MDGs（ミレニアム開発目標）コーナーでは、パネルを作り啓蒙、そして MDGs のために自分ができることを書いてもらい、それを掲示した。JICA 研修生や在住外国人、一般市民からの意見を掲示する事でそれぞれの考えを知る機会ともなり交流の場ともなった。



NGO 活動に関する相談を受ける様子。



MDGs について、自分にできることは何か？！
を書いてもらい、掲示した。

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(団体名) 特定非営利活動法人名古屋 NGO センター

NGO相談員による出張サービス実施のご報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり行いましたので、ここにご報告いたします。

記

1. 企画名：COMBi本陣 第6回文化祭
【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他()】
2. 出張者氏名：特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター 田口裕晃
3. 依頼元/主催団体名：COMBi本陣入居団体一同
4. 実施日時：2010年11月6日(日) 10時00分～15時30分
5. 実施場所：COMBi本陣(愛知県名古屋市中村区：名古屋市営地下鉄本陣駅)
6. 参加者数：参加者 約890人
7. 相談件数：20件
8. 企画概要：COMBi本陣文化祭における出張相談業務。
9. 実施内容：愛知県名古屋市中村区で開催されたCOMBi本陣文化祭において、相談ブースを設置し、一般市民からNGO活動・ボランティア活動についての相談を受けました。
10. 所感及び効果：
COMB文化祭は、地域住民の方を対象とし施設に入居するNGO/NPOやコミュニティビジネス等を楽しみながら知っていただくイベント。来場者はCOMBi本陣の近隣に住む小学生から高齢者まで様々な方が来場されました。相談内容は「NGOとNPOの違いは何か」「どのように関わることができるのか」「NGOの資金源は何か」という内容が中心となりました。また、小学生にはクイズなどをキッカケにして「NGO」「国際協力」についての話をしました。

